

第2章 架構・接合部構成の仮定

2.1 架構構成

架構形式は鉄骨梁勝ちとし、CLTの脚部及び頂部にグラウトジョイント接合部（以下、GJ接合部）を用いたCLTパネル構造とする。架構の構成については既往仕様^{*2-1}に対して、構造性能、製作性、施工性、コストに留意して設定する。架構構成概要を図2.1に示す。

部位・接合部	既往仕様*	本検討
鉄骨梁断面	H-400×200×8×13	H-300×150×6.5×9
CLTパネル	S90-5-7（パネル厚210mm）	S90-5-5（パネル厚150mm）
GJ接合部	オリジナルスリーブ（既往接合部）	既製品スリーブ、既往接合部のサイズダウン

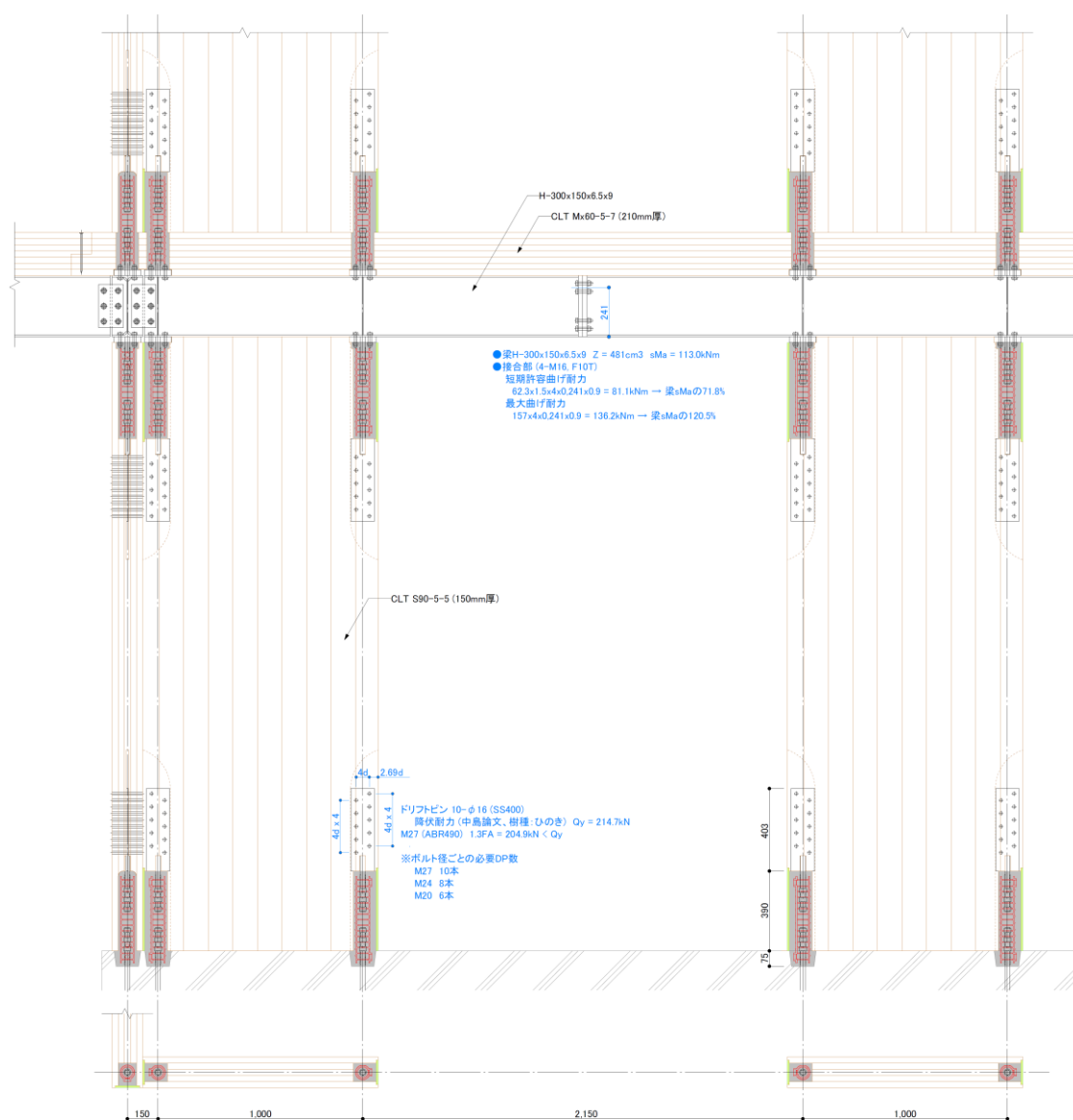
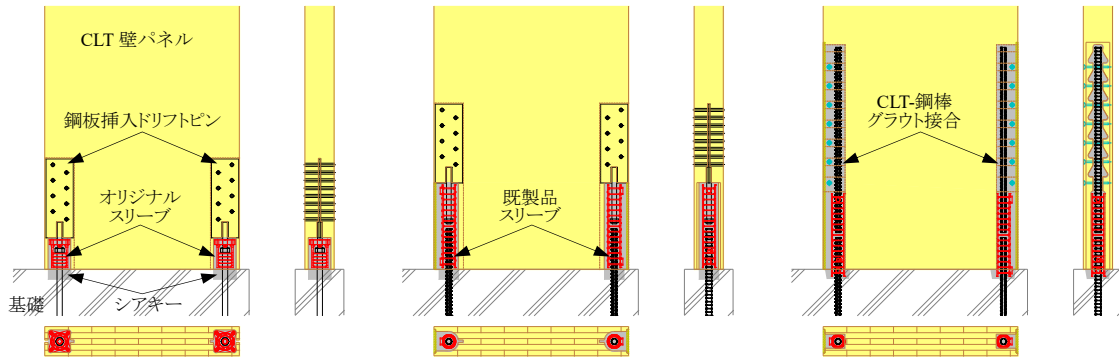


図 2.1 架構構成概要

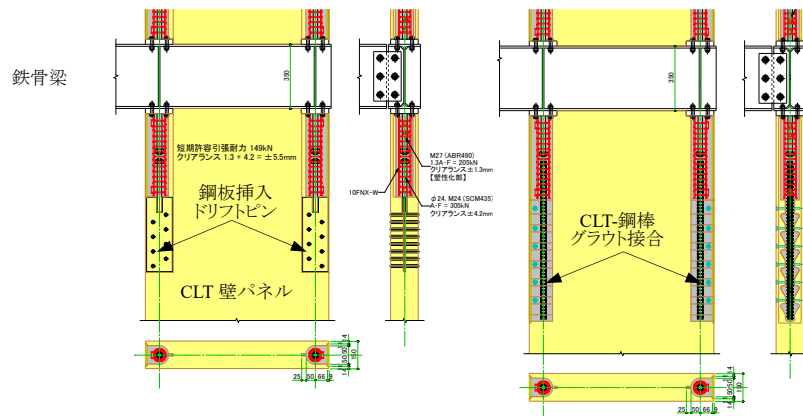
^{*2-1} 村上雅英、三宅辰哉、安曇良治、田中駿太郎、佐久田朝男、榎本敬大：スリーブに高強度グラウト材を充填したCLTパネル工法用の接合金物の開発，日本建築学会技術報告集 第30巻第75号，pp.668-673，2024年6月

2.2 接合部構成

GJ 接合部の構成については既往接合を縮小することを基本としたオリジナルスリーブのほかに、すでに RC 造の鉄筋継手に多用されている既製品スリーブを対象とする。CLT パネルに対する GJ 接合部の固定方法は挿入鋼板ドリフトピン接合によるほか、CLT にコブ状の掘込み加工を施し、異形鉄筋または ABR アンカーボルトと CLT とをグラウトモルタルを介して直接定着する「CLT-鋼棒グラウト接合」を検討する。



RC 基礎－壁脚接合部の構成例



鉄骨梁－壁頭接合部の構成例

図 2.2 接合部の構成パターン

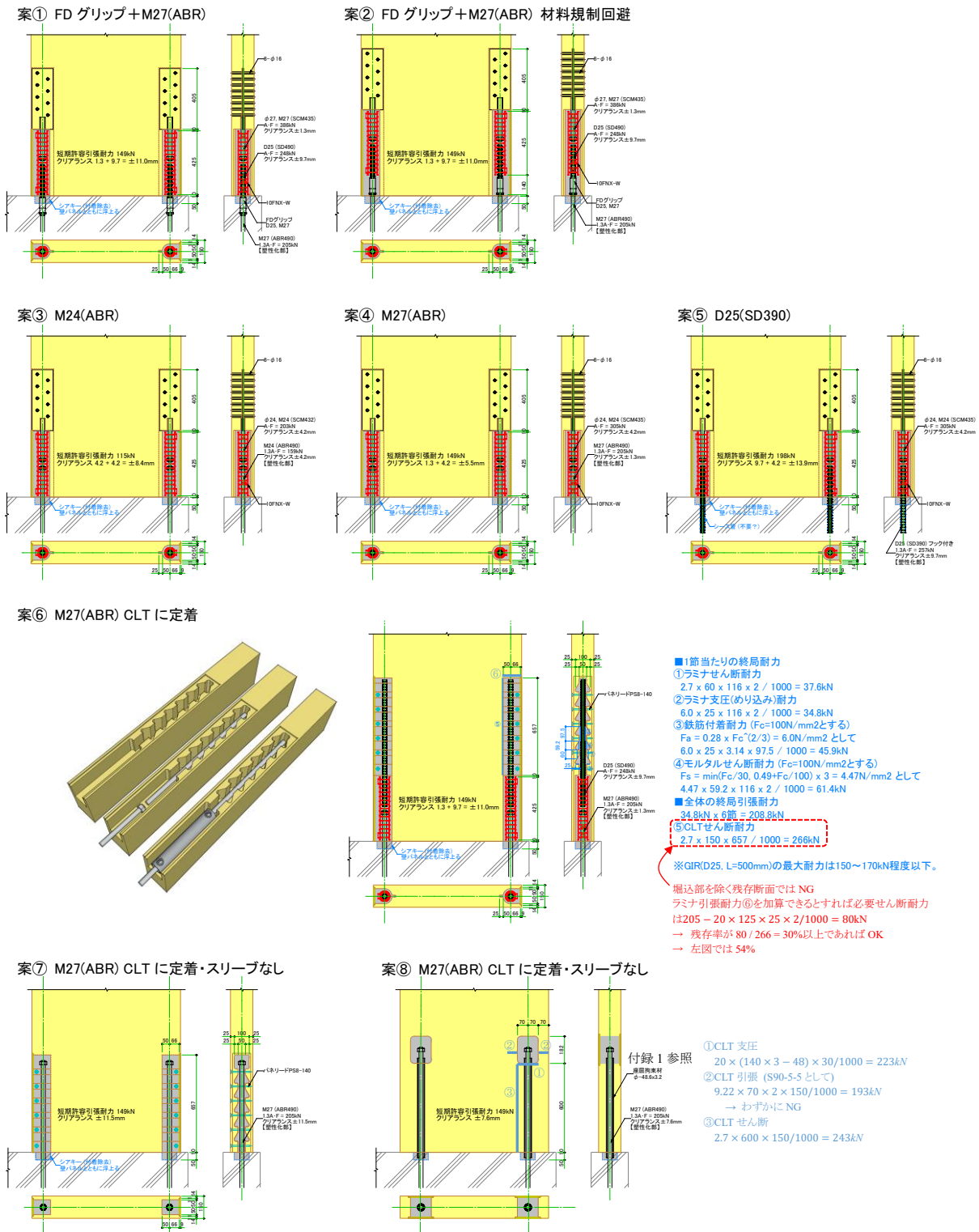
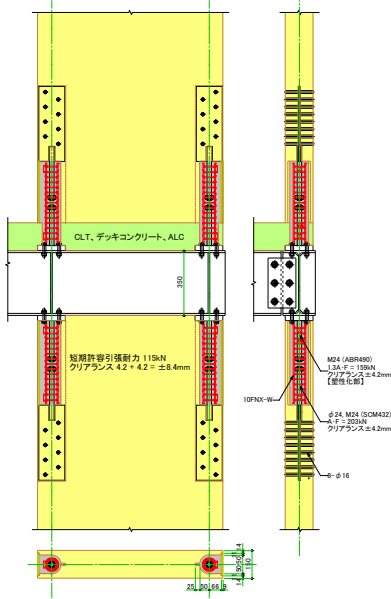
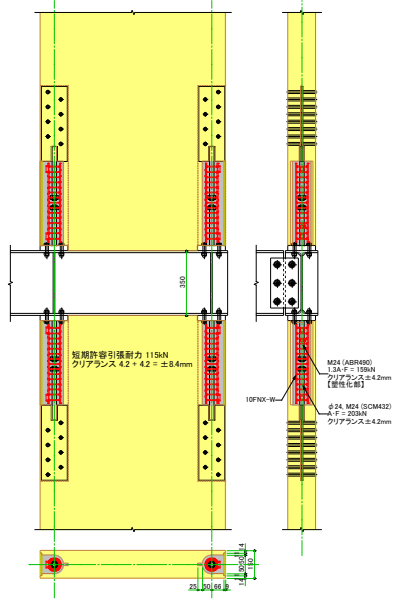


図 2.3 既製品スリーブを用いた GJ 接合案 (壁-基礎接合部)

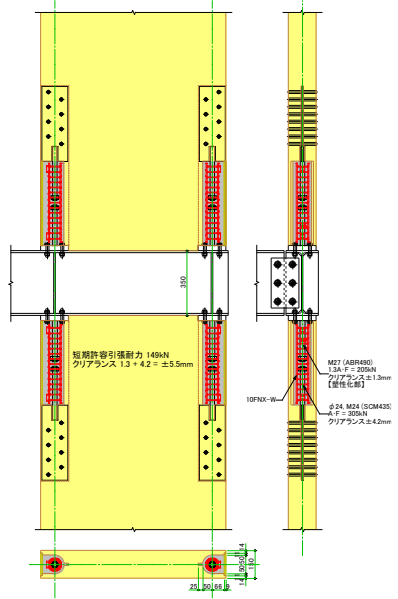
案① M24(ABR) 床勝ち



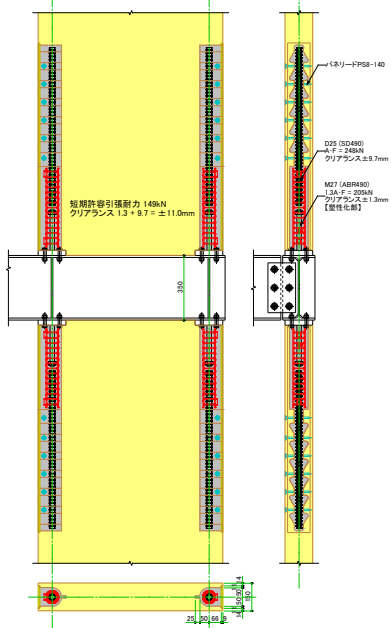
案② M24(ABR) 壁勝ち



案③ M27(ABR) 壁勝ち



案④ M27(ABR) CLT に定着



案⑤ M27(ABR) CLT に定着・スリーブなし

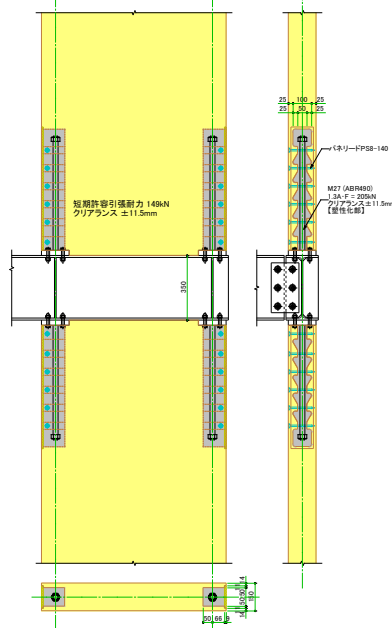


図 2.4 既製品スリーブを用いた GJ 接合案 (壁-梁接合部)